

新年明けましておめでとう

発展飛躍の2018年にしよう!



発行第1号
2018年
1月15日

<発行>
社会福祉法人
三原のぞみの会
.....

〒723-0046
広島県三原市
明神3-16-20
.....

<連絡先>
0848-38-1875

本法人が「三原市脳性小児マヒの子を持つ親の会」としてスタートして55年、「三原のぞみの会」と改名して52年、正式に社会福祉法人としての設立の認可を得てからも来月で43年になろうとしています。

新年にあたりまして、全ての法人関係者の皆様に、今回新たに立ち上げた広報紙の創刊号により、「社会福祉法人三原のぞみの会」の長い歴史と現在の姿をご覧いただき、会が輝かしい未来に向けて着実な歩みを続けていることをご紹介したいと思います。



▲2018年の抱負を語る安棟理事長

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、新しい年を迎えられ、仕事に日々の暮らしに新たな決意で臨もうとされていることと思います。

私が法人の立ち上げに関わらせてもらってから40余年が経ちます。障害を持つ親たち

の願いを受けて、何も分らない中で右往左往しながらの活動でしたが、若さと情熱だけで乗り切ったことを懐かしく思い出します。

法人は現在4つの事業部門（保育・障害・介護・発達支援）を運営しており、「揺りかごから墓場まで」という福祉の理想までにはまだまだですが、「乳幼児から高齢者まで」の多様な福祉事業を行い、地域社会からの信頼をいただいているものと自負しております。

さて、昨年は社会福祉法人に関わる国の制度が大きく変わって、法人の意思決定の仕

組みや、理事会を中心とする法人運営の執行体制が一新され、この業界も時代の波を受け、大きな変動期に入ったように感じる一年でした。

社会福祉法人の在り方をめぐっては、過去にごく一部ですが、不心得な法人の「放漫経営」や経営に不慣れた法人の利用者を路頭に迷わすような「経営破綻」などもあり、「社会福祉法人は経営実態が不透明」とか「経営組織のガバナンス」や財務規律の確立が不十分」との批判を受けており、これらが今回の社会福祉法人制度見直しの一因になったものと思っています。

社会福祉法人の事業を取り巻く社会環境が変化し、また国の福祉に対する熱意や姿勢が減退しているように感じら



▲法人の重要なことを決めるのは理事会
理事8名と監事2名で構成しています

れる今日、これまでは順調に歩んできた私たちの法人事業も決して安閑としてはいられない厳しい時代が近づいているように感じます。

社会福祉法人制度改革については、本法人は国の指導に先行して「情報公開」などに積極的に努めてまいりましたが、今後とも社会福祉法人の持つ、公益性と非営利性を発揮し、経営組織の確立と組織・事業の透明性の向上に努め、「人口減」と「少子高齢化」が進む「右肩下がり」の社会の中で生起する地域の多様な生活課題や福祉ニーズを受け止め、福祉事業による社会貢献に努めていきたいと考えています。ともに進んでいきましょう。

※ 用語解説 「ガバナンス」とは・・・

社会福祉業界では事業の利害関係者(利用者・保護者・現場職員・役員・事業取引関係先など)の主體的な連携作用による意思決定や合意形成のシステムのことを指し、狭義には組織の内部管理を強化するための理事会や評議員会、役員等の役割や権限、責任の範囲等を明確に定めることを言う。

■保育事業部門

● 保育事業部門は、「幼児連携型紅梅認定こども園」と「児童発達支援事業所こぐさばい」の2施設により構成され、この両施設は隣接して立地しています。

● 施設のすぐ前を流れる西野川の川土手には、紅梅認定こども園の名前の由来でもある梅並木が続き、早春には甘い香りと共に満開の花が咲き、春の訪れを告げてくれます。



● 近所には、子どもたちにとつての格好のあそび場である裏山や空き地などがあるところもあり、自然の中で身体をしっかりと動かし、たくさんの実体験を通して、元氣いっぱいの日々を過ごしながら成長しています。

■児童発達支援事業所「こぐさばい」

● 外あそび・散歩・感覚運動あそび・リズムあそび・触れ合いあそび・感覚あそびなどいろいろなあそびを通して、身体や言葉の発達を促し、友だちとかわる力を育てていきます。

また、生活全般を通して、基本的な生活習慣を身につけていけるよう援助していきます。

● ここは「紅梅認定こども園」や「子育て支援センターのぞみ」に併設しており、こども園や地域の子どもたちとの交流も行なっています。

幼保連携型 紅梅認定こども園

<ともそだち>

豊かな自然と多くの人たちと充分かわり、一人ひとりの子どもたちが 共に育ちあい、生き生きと楽しく生活する力、生きる力の基礎を育む

**自分大好き
友だち大好き
自然大好き**

自分のしたいことに夢中になって取り組む
自分大好きな子ども

自然の神秘さ
不思議さに感動し
生き生きとあそぶ
自然が大好きな子ども

**友だちと心を通わせて
あそびや生活を
作り出せる
友だち大好きな子ども**

めざす子ども像



▲ 感覚遊具で体をおもいきり動かして遊んでいます

■障害事業部門

● 障害事業部門は、まず84年に精神薄弱者授産施設(通所)「三原きぼう作業所」が開所。その後、93年に「親なき後の生活の場」としてグループホームの「ホーム田野浦」が、97年4月には小規模作業所として「チューリップ」が開所し、さらに16年4月には障害福祉サービス事業所「ぴーす」が新設されました。現在の障害部門は、この3事業所で運営を行なっています。創刊号ではこの中から「三原きぼう作業所」での作業や活動の様子を利用者さんの姿とともにお伝えします。



▲ 三原きぼう作業所の全景

● 現在、三原きぼう作業所では利用者さんのニーズや状態に合わせて、一日の過ごし方を「作業」と「活動」に分けて、1日作業、1日活動、また作業と活動を半日ずつで過ごすという3パターンに分かれて過ごしています。それでは、作業の様子を紹介します。



▲ 福祉用具の清掃作業中にニコリ

● 室内作業では、外部からの委託を受けての福祉用具清掃や、ボルトの「ナットはめ」、広告の仕分けや糸の仕分けなどの軽作業を、利用者さん一人ひとりの特性やペースに合わせて行っています。

● 続いて室外の作業としては、現在、業者からの委託で洗車を行なっています。



▲ みんなで楽しむボールゲーム

● 続いて活動の紹介です。活動では体操や工作、ゲームやカラオケ等のプログラムで利用者さんの楽しみや健康増進に繋がっています。



▲ 洗車作業で車がピッカピカに

暑い日も寒い日も、毎日一生懸命がんばって作業を行なっています。

■介護事業部門

●居宅介護支援事業所

介護を必要とされる方が、自宅で適切にサービスを利用できるように、ケアマネジャー(介護支援専門員)が心身の状況や生活環境、本人・家族の希望等に沿ってケアプラン(居宅サービス計画)を作成したり、ケアプランに位置づけたサービスを提供する事業所との連絡・調整などを行います。要介護認定の申請のお手伝いもします。何かありましたら、いつでもご相談を。



▲訪問してのお料理のお手伝い

●訪問介護事業所

訪問介護の仕事は、利用者さんのお宅にうかがって行う、介護保険サービスでの身体介護・生活援助、障害福祉サービスでの居宅介

護(身体介護・家事援助)

のほか、移動支援、同行援

護(視覚障害者)で外出の

支援を行っています。1対

1で行うサービスなので、

気を使うことも多いのです

が、利用者さんが安心して

住み慣れた家で暮らせるよ

うに、より良いサービス提

供をめざし、ヘルパー間で

情報共有や意見交換を行っ

ています。



▲デイサービスでの元気回復中

●デイサービス

デイサービスでは、送迎

を行い、日帰りで入浴・昼

食の提供・介護等について

の相談・助言・健康状態確

認といった日常生活上のサ

ービスや、機能訓練・レク



▲アットホームな霧岡のきぼう介護センター

●福祉用具貸与事業所

に努めております。「利用者さんや、家族の方が安心して過ごせるデイサービス」を目指しております。

ここは介護保険対象の利

用者さんに福祉用具を貸与

し、日常生活の自立支援や

介護の方の負担軽減を図る

サービスを提供しています。

テレビでもよく見かける介

護ベッドや車いすは貸与、

ポータブルトイレやお風呂

の椅子は販売の対象になっ

ています。いずれの商品も

利用者さんそれぞれの負担

割合(1〜2割)で利用でき

ます。利用前にお試し品

も準備しています。お困り

ごとがあれば、どうぞ声を

おかけください！身体に合った商品を提供させていただきます。

■発達支援事業部門

●こども発達支援センター

のぞみは、開設(12年4月開所)して6年目の若い施設です。



▲こども発達支援センターのぞみの外観

三原市にお住まいの、発達に心配のあるお子さんに対

象に、相談から療育まで総合的なサービスを行い、お子

さんの健やかな成長・発達を促すお手伝いをしています。

現在、就学前のお子さん(児童発達支援) 25名、小学生

のお子さん(放課後等デイサービス) 27名が、元気に通っています。

●私たちの支援は3つの柱を中心に行っています。子

どもたちの自尊心や主体性を育てながら、発達上の課題

を達成させていくこと(発達支援)。子どもの育児や発達

の基盤である家庭生活への支援(家族支援)。地域での

健やかな育ちと成人期の豊かな生活を保障できる地域

の変革(地域支援)。この3つを念頭におきながら、地域

の教育機関や支援機関と連携を深めているところです。

●「のぞみ」では、保育士や児童指導員など、常勤・非常勤合わせて18名の若い

(?)スタッフが毎日子どもたちと一緒に駆け回っています。法人理念の一つである

「笑顔のある地域社会づくり」を大切に、スタッフ一

同いとも「笑顔」でいることを心がけています。

●春はイチゴつみ、夏はプール、ひまわり迷路、秋は運動会、いもほり、冬は焼きい

も、もちつきなど子どもたちの楽しみがいっぱい！

▲ ひまわり迷路を楽しむ子どもたち



▲ ひまわり迷路を楽しむ子どもたち

●三原市内を毎日走る送迎バス(「きぼう君」と「のぞみちゃん」マークが目印)を見かけたら、ぜひ手を振って子どもたちにエールを送ってください。



▲運動会でリズム体操をする子どもたち

子どもたちは、「のぞみ」での活動を通して「できた!」という自信を胸に、みんなたくましく成長しています。子どもたちの何ごとにも一生懸命な姿や笑顔に私たちスタッフの方がパワーをもたらしているといっているかもしれません。



写真で振り返る法人の歴史

～第1回～昭和50年代

紅梅認定こども園

1979年に開所した当時の
“紅梅保育所”のようすです

豊かな自然の中で実体験を大切に、〈ともそだち〉の理念をもとに一人ひとりの子どもたちが共に育ちあい、生き生きと楽しく生活する力、生きる力の基礎を育んでいます。



▲ 裏山でのあそび 自然が満喫できる環境です。



▲ 大きな芋が掘り出され、
「やった！」と歓声



▲ 初めての運動会 先生も子どもたちも大張り切り

この頃在籍していた子どもたちも
今では40歳を超えて、心も身体も成長し、
立派なお父さん・お母さんになっています。



▲ 初代の名物所長 芦刈さんと楽しい給食です。

開所してから今まで多くの
人たちとの関わりを大切に、
自然にたっぷり触れながら
あそびつないできました。



▲ 園庭でやきいもをしているところ

三原きぼう作業所



▲ 1984年4月2日 三原きぼう作業所 入所式
皆の晴れやかな表情から作業所がスタートしました。



▲ 1984年 当時の三原きぼう作業所外観
陽の光を浴びてピカピカに輝いています。



▲ 1984年4月14日 お花見
中央公園にて、満開の桜の下、
皆さんの笑顔が弾けています。



▲ 1984年12月 もちつき行事
利用者さん一人一人、楽しく
おいしくもちつきを楽しみました。



▲ 1984年9月22日 社会見学旅行
東郷温泉にて、皆でおいしい食事を囲い、親睦を深めました。